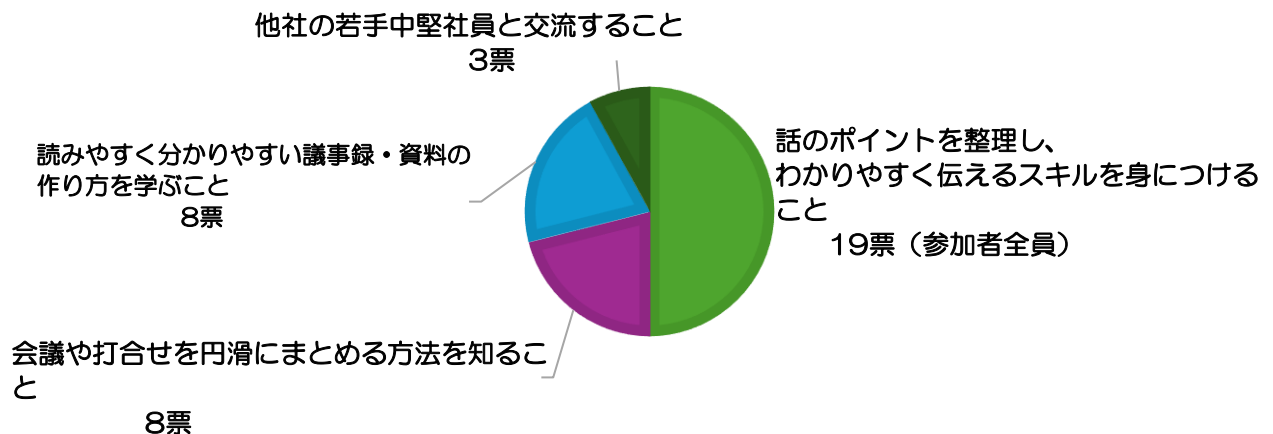


よこてサテライトカレッジ若手中堅社員のための人材育成セミナー
「グラフィックレコーディング講座」アンケートまとめ

Q1 今回の講座にどんなことを期待していましたか？

(複数回答可)



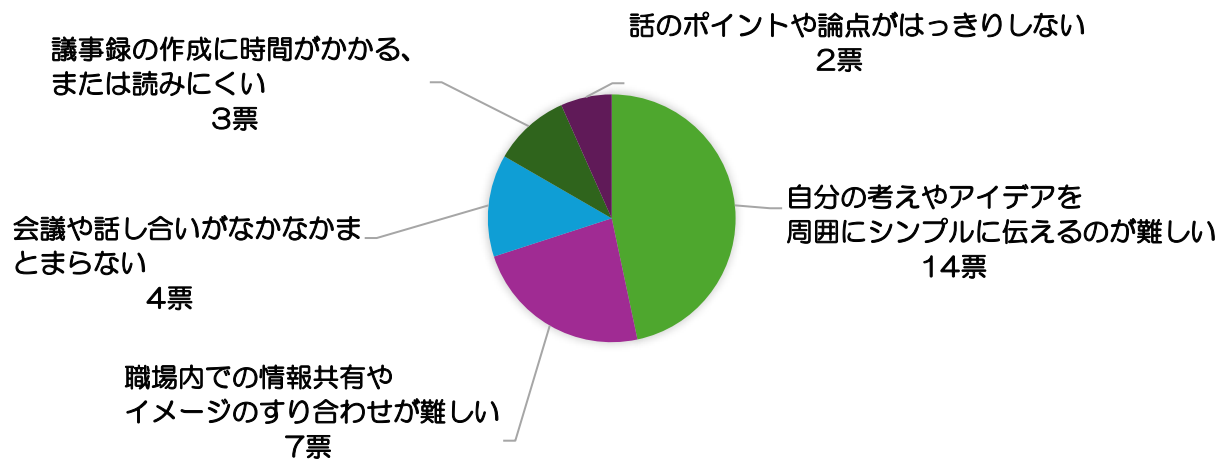
参加者 19 名全員が「話のポイントを整理し、わかりやすく伝えるスキルを身につけること」を選択し、次いで、「会議や打ち合わせを円滑にまとめる方法」、「議事録・資料の作り方」が 8 票と同数で続き、日常的な実務（会議の進行や記録）に関する課題解決に対して、高い期待を寄せて参加していた。

「実務直結型のビジネスツール」としての期待

会議のファシリテーション（円滑な進行）や議事録・資料作成など、日々の業務に直結する項目にも約 4 割の参加者が期待を寄せており、これは、グラフィックレコーディングを「業務効率化やチームの生産性向上のための実践的なビジネスツール」として現場に持ち帰りたいという意欲とみられる。

今回の参加者は事前の段階では「交流」よりも「実用的スキルの獲得」を主目的として集まっていた。ただし、事後のアンケートでは交流が有意義だったという声も多数挙がっていることから異種業交流という面でも機能していた。

Q2 普段の業務や職場において、課題に感じていることはありますか？（複数回答可）



参加者のほとんどが「自分の考えやアイデアを周囲にシンプルに伝えるのが難しい」という課題を挙げた。次いで、「職場内での情報共有やイメージのすり合わせが難しい」が7票と約4割を占めた。

「自己の発信力・伝達力」への強い課題感

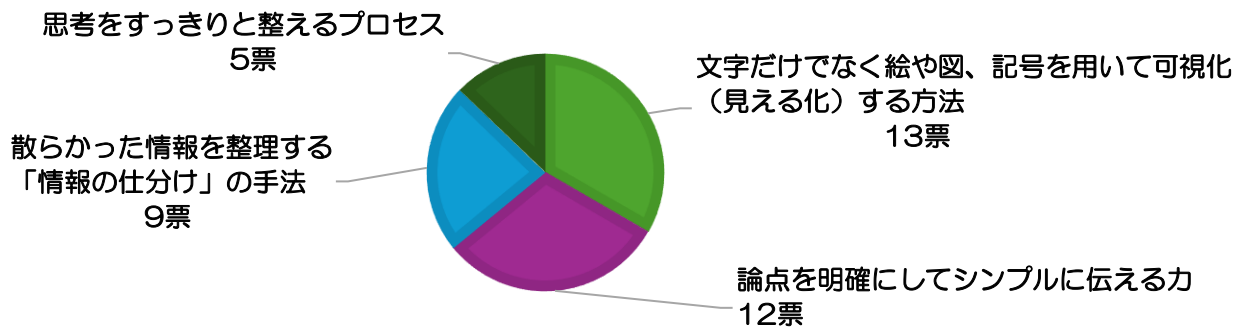
多くの参加者が、会議の進行や他者の発言への不満よりも、「自分自身が周囲にどう伝えればよいか」という個人のコミュニケーションスキル（表現力や論理的構築力）に悩みを抱えていた。

「イメージ」を共有する難しさ

「情報共有やイメージのすり合わせ」が課題として挙げられた理由として、言葉だけでは伝わりきらないニュアンスや全体像をチーム内で共有することの難しさが考えられる。 グラフィックレコーディング（図形、枠、色、矢印などを用いた可視化）は、まさにこの「個人の頭の中にある思考を外に出し、他者とイメージを一致させる」ことに直結する技術であるため、本講座の内容が参加者の抱えていた悩みに刺さり、Q4の回答である、高い満足度（全員が満足・概ね満足）に繋がったとみられる。

Q1の回答、Q2の課題は、参加者が「自分自身の思考を整理し、的確に周囲に伝える」という基礎的なビジネススキルの向上を最優先で求めている結果と考えられる。

Q3 今回の講座で特に理解が深まった点や
学びがあったと感じた項目はどれですか？
(複数回答可)



「可視化の手法」が最もダイレクトに伝わった

「絵や図、記号を用いた可視化」が13票と最も多く選ばれ、「絵心がなくても描ける6つのグラフィックパターン」や「記号・枠の活用」といった講座で示された実践的な手法が、参加者にとって非常に分かりやすく、即効性のあるスキルとして吸収されたといえる。

また、「論点を明確に伝える力」が12票、「情報の仕分け手法」が9票となったことから、参加者はたくさんの意見の中から要点を掴み、構造化して伝えるという「高度な情報処理・論理的コミュニケーションの手法」としてグラレコを学んだと考えられる。

Q1（期待）・Q2（課題）に対する課題解決となった

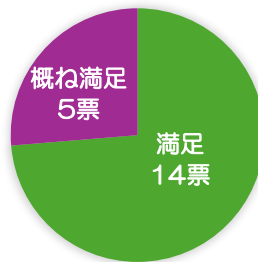
参加者のほとんどが「自分の考えをシンプルに伝えるのが難しい」と悩み、全員が「話のポイントを整理し、わかりやすく伝えるスキル」を期待していた。

Q3の結果から、本講座が参加者の抱えていた悩みに対して、的確で実用的な解決策を講座として提供できたといえる。

グラフィックレコーディングの「ビジネスツール」化

今回はグラレコを「会議の生産性を高めるための実務的なビジネスツール」として紹介する場となり、要約のコツを学んだことで、「自分にもできるかもしれない」という意欲に繋げることができた。

Q4. 今回の講座の満足度をお聞かせ下さい。



参加者全員（100%）がポジティブな評価となり、本講座が参加者の期待と課題解決に大きく合致する内容であった。

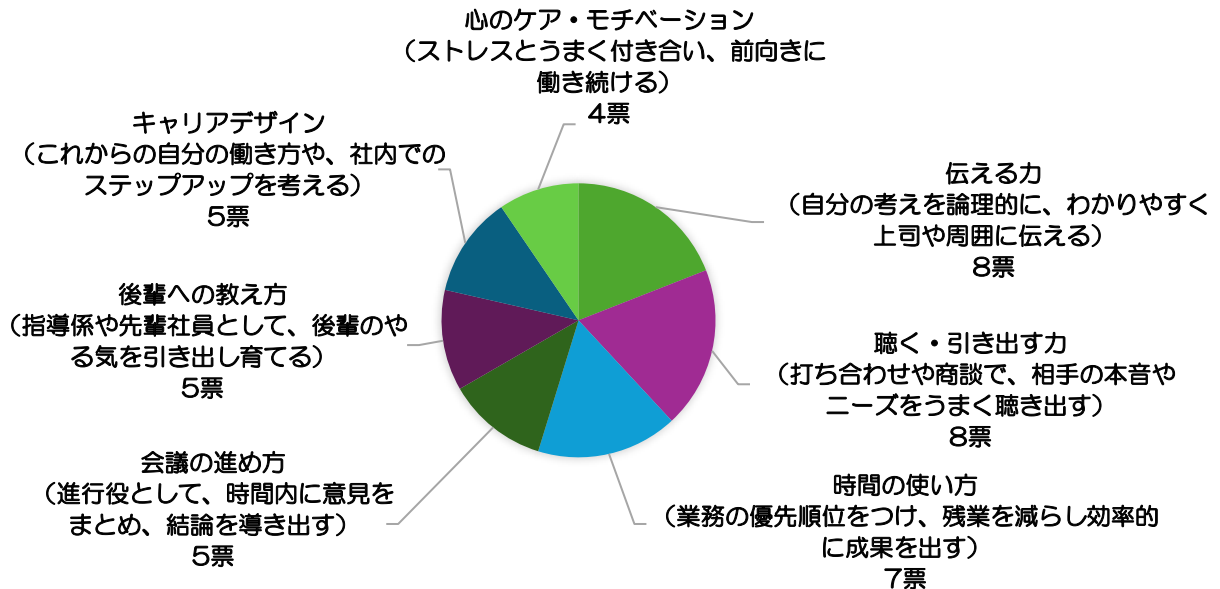
参加者は「自分の考えをシンプルに伝えるのが難しい」という悩みを抱えていた。本講座が100%の満足度を得たのは、その悩みに対して「図や枠を使って可視化する」という明確で実践的な解決策を提示し、実際に手を動かすワークを通じて「自分にもできそう」という確かな手応えを感じさせることができたためと考察できる。

「概ね満足」に留まった理由

「少しやれると思えるようになった」というポジティブな声がある一方、「これから実践できそうだなと思ったが、自分がうまく使えるかわからないため」と、実践に対する一抹の不安が、最高評価である「満足」にチェックを入れることを躊躇させた要因だと推測される。

「うまく使えるか分からない」という不安の声に対して、基礎的なスキル習得に加え、「自分のノートメモの取り方から変える」「会議の最初だけ議題を図解する」といった周囲の目を気にせずスモールステップで始められる具体的な導入方法をさらに強調し、参加者の不安を取り除くことが必要だったと考えられる。

Q6 「よこてサテライトカレッジ（人材育成プログラム）」について、今後どのような「悩み」や「スキル」に関する講座があれば参加してみたいですか？



双方向のコミュニケーションスキルへの高い関心

「伝える力」、「聴く・引き出す力」が8票ずつとなり、参加者の関心が高いことがうかがえる結果となった。

参加者は自身の発信力だけでなく、相手の意図を汲み取るヒアリング力も含めた、双方向の円滑なコミュニケーションスキルの向上を強く求めている。

マネジメントと実務効率化のニーズには「時間の使い方」が7票、「後輩への教え方」が5票となり、若手から中堅へとステップアップしていく中で、自身の業務効率化（タイムマネジメント）と、チーム内の人材育成（ティーチング・コーチング）という、より実践的なマネジメント課題に直面している層が多い。

また、今回の講座の満足度が高かったが、伝える、聴く・引き出す力、会議の進め方について更に学びたいと考える参加者が多く、こうした講座についての需要がとても高い。

自由記述の回答から

①実用性の高さや業務への直結

「議事録のまとめ等に使えると思った」「仕事に使えると思った」「これからの自分が業務に反映できそうだから」といった声が多く見られた。

グラレコを日々の業務（議事録作成や会議の可視化）を改善する「実用的なビジネスツール」として認識できたことが、高い満足度に直結していると考えられる。

②心理的ハードルの低下と楽しさ

「議事録に図など取り入れたことがなかったので新しいやり方を知ることができた」

「実践を通して楽しくグラレコに触れることができた」など、新しいアプローチを前向きに楽しめたという意見があった。

講師を務めた平元氏の「絵心がなくても描ける」というアプローチが成功し、絵を描くことへの抵抗感が払拭されたことがうかがえる。

まとめ

1. 受講前の課題と期待：共通する「伝える」ことへの壁

参加者の多くが、日常業務において「自分の考えやアイデアを周囲にシンプルに伝えるのが難しい」という課題感を抱えていた。そのため、事前の期待として参加者19名全員が「話のポイントを整理し、わかりやすく伝えるスキルを身につけること」を選択しており、グラフィックレコーディング（グラレコ）をコミュニケーション課題を解決するための「ビジネススキル」として求めていることが明らかになった。

2. 講座の学びと高い満足度：課題に対する的確なアプローチ

講座後の満足度は「満足」と「概ね満足」となり、100%ポジティブな評価となった。

特に理解が深まった点として、「文字だけでなく絵や図、記号を用いて可視化する方法」、「論点を明確にしてシンプルに伝える力」、「散らかった情報を整理する『情報の仕分け』の手法」が高く評価されている。

参加者の「うまく伝えられない」という悩みに対し、情報を整理し視覚化するという明確な解決策を提示できたことが、高い満足度に直結した。

3. 明日からの実践意欲：スモールステップでの導入

参加者の自由記述からは、学んだスキルを職場ですぐに試そうとする高い意欲がうかがえる。「自分のメモの取り方から変えてみたい」「簡単な記号など使ってみる」といった個人的な業務からのスモールステップ「会議の際にホワイトボードを使ってみる」「議事録の代わりにグラレコするなど、日常業務のささいなところからやってみたい」といったチームでの情報共有への応用が挙げられ、絵心への抵抗感が払拭されたことで、実務にどう活かすかのイメージを参加者自身がしっかり持てたことが大きな成果と言える。